

平成 27 年 度 事 業 報 告 書

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日まで

〒964-0906 二本松市若宮 1-361

カトリック二本松教会内

特定非営利活動法人 福島やさい畑～復興プロジェクト

代表理事 柳沼千賀子

電話 0243-23-3037

1. 事業の成果

大震災から丸 5 年、NPO 法人設立から丸 3 年が経過。

〈野菜販売〉

野菜販売の売上はトータルとしては若干ではあるが伸びている。委託販売、宅配、ネット販売等は下がったものの、直接販売がその分をカバーして伸びたため、売上増となった。応援買い精神は薄れ、おいしいから、ここでしか買えないからという理由によるお客様が定着してきたと思われる。また、売上を効率的に伸ばすためには宅配の販売を増やすことが得策かと思われたが、face to face でお客様と会話し質問などに答えながらの販売方法がお客様を確保する最善の方法であり、当法人の売りともなっている。

仮設 4 か所での販売は、およそ 20%の減となった。これは仮設住民の減少のためである。ますます仮設住民は減少していくことが明白なので、仮設販売は今後の課題である。

〈仮設への野菜配布〉

配布の際に、各世帯から野菜を取りに来ることによってお互いに顔を合わせる意義は大きい。しかし、帰還困難区域の住民以外は 2017 年 3 月までに仮設から出なければならぬことから、仮設の住民もだいぶ減少してきている。自治会を閉鎖したところも二本松市、本宮市の仮設で 5 か所に上っている。残っている人は圧倒的に高齢者が多い。他からのイベントも著しく減少しているため、当法人の支援の役割は大きい。仮設からも継続を望まれている。コミュニケーションや見回り隊としての意義が大きいことから、今後も住民が減っても配布支援を継続していくことが望ましいと考える。

〈寄付〉

寄付は 600 万円の減となっているが、前年の車購入のための約 400 万円の特別寄付を除くと 200 万円の減である。寄付者の人数は増となっている。前年度は大雪のために損害が出て資金不足となってこちらから寄付をお願いしたが、今年度はそうしたこともなく寄付者の自発的な篤志によった。

〈福島への視察訪問者〉

福島への視察や支援のための訪問者はほぼ毎月 2、3 の団体が、延べ 17 回来福した。その顔ぶれは 4 団体を除いてリピーターである。また、支援目的が 4 回、それ以外が視察訪問のためである。県外からの訪問者が目的は何であれ、継続して来福してくれるのは喜ばしいことである。今後、観光のためであれ、新しい人に来て頂くよう PR していきたい。

〈講演会・取材〉

講演は、8 月に大阪、2 月に東京、の 2 件のみであった。取材は、5 月に福島中央テレビ、7 月と 11 月にポーランド人のジャーナリスト、2 月に朝日新聞の 3 件だけであった。前年と比較するとだいぶ減少した。5 年経ったことで関心が薄くなってきたためと思われるが、当然の推移ではある。